
おえういあ小説

のみのみの

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おえういあ小説

【コード】

N0511M

【作者名】

のみのみの

【あらすじ】

「ん」から「あ」までの四十六個の音を、四十六文それぞれの頭に順番に持ってきて小説を書いてみました。第三弾。今度は異世界召喚ものです。

「……んっ」

「……………を……………てきてく……………」

私が目を醒ますと、ワタワタと慌ただしい音が聞こえてきたので、そつと目を開けた。

「ロイ王子！」

「連絡ありがとう」

瑠璃色の髪の毛が目飛び込んできて、私を覗き込む一人の美青年が目に映った。

「理由は後でしっかりと説明をするが、姫、突然で申し訳ないが御協力願いたい」

落雷が当たったような 実際到现在までに当たった事はない嫌な衝撃が、身体中を駆け巡った。

「よ、よく分からないんですけど」

優雅な美青年にタメ口はよくないと思い、敬語で言葉を発した。

やおら上体を起こすと、周りに見知らぬ服を着た沢山の人がいる事が分かった。

「もしかして、異世界とかいう、最近流行りの？」

目の前の白衣をきたおじさんは、流行りかどうかは知らないが、と言いながら頷いた。

「……………無理、なんですけど？」

耳元で、囁くように美青年は言う。

「まずは俺の嫁になれ。」

他のことは後から考えろ

へ？

「夫婦になれ、と言っている」

「一つ、言ってもいいですか？」

はつきり言っつて意味不明なのだが、今はこの俺様美青年を兎に角

一発殴った。

「……のぼせあがってるんじゃないぞ、このボケ！」

寝るから、起こすな」

又クツと起き上がった美青年は、周りがざわめくのを全く気にせず、ふてくされたように寝入る異世界の住人を暫く見つめてから自室に戻っていった。

ニヤリとほくそえみながら。

何でこんなことになっているんだ！

とりあえず現状確認をしておこうと思ったが、ここが異世界かと問われても、はっきりとNOとは言えない。

手が暖かいのを感じて、まだ部屋に残っていた白衣のおじさんに聞いた所、召喚されてからずっとあの美青年　ロイ・デカール・なんたらとかいう名前の王子らしい　が手を握っていたらしい。つい、惚れてもいいかな、などと考えてしまったが、頭を振ってその雑念を振り払った。

ちなみに、さっきは執務とかで側にいなかったそうだ。

ただ流れに身を任せるか、己の信じる道を突き進むか。それが問題だ。

世界が今までいたものと違う、と言われても、実感はほとんど無い。

推理とか洞察とか苦手な私だが、あの俺様王子の妻という肩書きだけは絶対に嫌だ。

死ぬ方がましだと思う。

再度、白衣のおじさんに声をかける。

「このあと、私はどうなるんでしょうか」

喧嘩を売ったからな、王子に。

「国に支える者としては、姫には是非ともこのまま協力してもらいたいけど、個人的には自由な道に行ってもらいたいとも思っている

よ。

気が向いたら声をかけてくれれば、脱走のお手伝いくらいは協力するよ」「

簡単にそう言うが、それって結構難しい事なのではないだろうか。おバカと呼ばれた事のある私でも、流石に分かる。

「えーっと、考えておきます」

うん、と白衣のおじさんは頷くと、部屋を出ていった。

一体全体、何がどうなっているのやら。

欠伸を一つ、私は再び瞼を閉じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0511m/>

おえういあ小説

2011年1月15日21時51分発行